



幼學綱要

五

9  
1064  
5



1046  
5

幼學綱要卷之五



○又曰 忍耐第十二 忍ブコト有ラザルモノハ  
 人志有リト雖モ。忍ブコト有ラザルモノハ。  
 事 中道ニシテ廢ス。唯能ク忍ブコト有リテ。  
 垢ヲ含ミ。恥ヲ蒙リ。艱苦ヲ甘ム。危患ヲ踐  
 ム者。乃其志ヲ成スコトヲ得ム。之ヲ泉水ノ  
 車不深山ニ出テ。江海ニ達スルニ譬フ。其能ク然  
 ル所以ノ者ハ。巖石ノ爲ニ。盈進ヲ廢セザレ  
 地不バナリ。忍耐ノ效亦大ナラズヤ。  
 ○書曰。必有忍。其乃有濟。

幼學綱要 卷之五 一 宮内省藏

○論語曰。士不可以不弘毅。任重而道遠。仁以為己任。不亦重乎。死而後已。不亦遠乎。

○又曰。無欲速。無見小利。欲速則不達。見小利則大事不成。

○又曰。小不忍。則亂大謀。

○孟子曰。天將降大任於是人。必先苦其心志。勞其筋骨。餓其體膚。空乏其身。行拂亂其所為。所以動心忍性。曾益其所不能。

○又曰。有為者。辟若掘井。掘井九軌。而不及泉。猶為棄井也。

○源賴義。沈毅ニシテ武略多ク。將帥ノ器有リ。騎射ヲ善ス。永承中。陸奥ノ酋安倍賴時亂ヲ作ス。廷議賴義ヲ以テ。陸奥守ニ拜シ。兵ニ將トシテ之ヲ討ゼシム。會大赦ス。賴時兵ヲ解テ降り。賴義ニ臣事ス。賴義遂ニ鎮守府將軍ヲ兼ヌ。任滿テ將ニ還ラムトス。賴時子貞任等ト。衣川ニ據テ反ス。賴義ニ詔シテ之ヲ討ゼシム。賴時ト大ニ戰フコトニ日。賴時敗死ス。餘黨未平ガズ。貞任兵勢日ニ熾ナリ。官軍數利アラズ。歲荐ニ饑ルニ屬シ。糧食給ラ

ス。兵衆離散シ。復、合スルコトヲ得ズ。賴義之ヲ憂  
ヘ。奏シテ諸國ノ兵食ヲ徵發セムコトヲ請ヒ。親  
ヲ兵一千八百餘人ヲ督シテ。貞任ヲ河碕ノ柵ニ  
擊ツ。會、大風雪。人馬凍餒ス。貞任精兵四千餘人ヲ  
以テ。出テ鳥海ニ戰フ。賴義大敗シ。士卒死亡殆ト  
盡キ。纔ニ六騎ヲ餘ス。賊急ニ之ヲ圍ミ。矢下ルコ  
ト雨ノ如シ。賴義ノ子義家、藤原景通等ト。殊死シ  
テ戰フ。賊兵遂ニ退ク。賴義既ニ免レ。乃奏ス。兵食  
至ラズ。遠近皆然リ。且出羽守。臣トカヲ戮セス。是  
ニ於テ。詔シテ出羽守ヲ罷ム。新守至ル。亦敢テ來

リ援ケズ。貞任勢益張リ。私符ヲ以テ官物ヲ徵ス。  
賴義益困ミ。對守スルコト數歲ナリ。是ヨリ先、賴  
義再ビ陸奥守ニ任ズ。是ニ至リ。任又滿ツ。高階經  
重ニ詔シテ之ニ代ラシム。國民賴義ヲ慕テ。經重  
ニ服セズ。經重已コトヲ得ズシテ去ル。是ニ於テ。  
賴義必賊ヲ滅サムト矢ヒ。人ヲシテ出羽ノ酋清  
原光賴及弟武則ニ説テ。援ヲ爲サシム。武則子弟  
以下萬餘人ヲ率テ至ル。賴義三千人ヲ以テ之ニ  
會シ。進テ小松ノ柵ヲ攻テ。之ヲ拔ク。會、霖雨アリ。  
留ルコト旬餘。磐井以南。盡ク賊ニ應シ。官軍ノ糧

道ヲ奪フ。賴義兵ヲ分テ赴キ拒ガシム。貞任其兵ノ寡キヲ伺ヒ。自精兵八千ヲ以テ來リ襲フ。賴義逆ヘ擊テ。大ニ之ヲ破リ。北ルヲ追テ。磐井川ニ至ル。機ニ乘ジテ。遂ニ賊巢ヲ擣ムト欲シ。武則ヲシテ精兵八百ヲ以テ。夜之ヲ追シム。武則間道ヨリ。貞任ノ營ヲ襲擊ス。賊軍大ニ亂レ。退テ衣川ノ關ヲ保ツ。賴義進テ之ヲ攻ム。會霖雨。水漲リ。軍利アラズ。武則竊ニ兵ヲ遣シテ。賊營ヲ燒カシム。貞任駭走ス。賴義追擊シ。連ニ二柵ヲ破リ。進テ鳥海ノ柵ヲ拔キ。又三柵ヲ破リ。遂ニ厨川ノ柵ヲ圍ム。貞

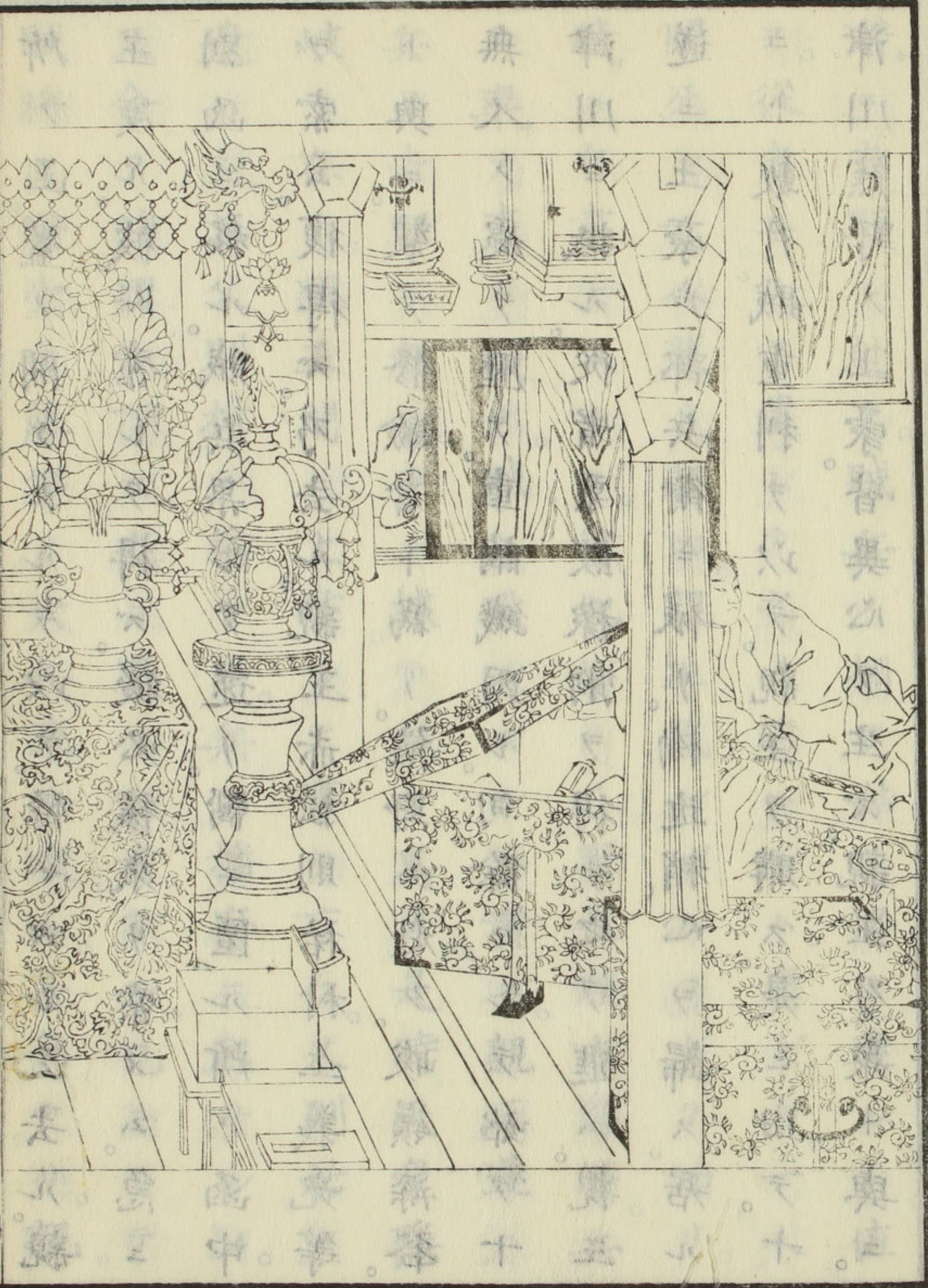
任樓櫓ヲ起シテ固守シ。矢石雨ノ如ク下ル。官軍死スル者數百人。賴義民屋ヲ壞テ塹ニ填メシメ。馬ヨリ下テ。遙ニ京師ヲ拜シ。手ヅカラ火ヲ取り。神火ト號シテ之ヲ投ズ。會風起リ。樓櫓皆火トナル。官軍因テ急ニ之ヲ攻ム。賊殊死シテ戰フ。武則其一角ヲ解ク。賊衆逃走ス。賴義擊テ之ヲ殲シ。遂ニ貞任ヲ斬ル。貞任ノ弟宗任等皆降リ。餘黨悉ク平グ。詔シテ賴義ヲ以テ。正四位下ニ叙シ。伊豫守ト爲ス。義家以下官ニ拜スルコト差有リ。賴義始テ賊ヲ討ジテヨリ。是ニ至ルマデ十餘歳。乃掃蕩

ノ功ヲ奏ス。其鳥海ノ柵ヲ抜ク。武則ニ謂テ曰ク。子吾。面目ヲ視レバ。奚若ゾヤ。對テ曰ク。將軍忠ヲ天子ニ盡シ。野ニ暴露スルコト十餘年。頭髮盡ク白シ。今將軍ノ髮ヲ視レバ。復半黒ナリ。即貞任ヲ獲バ。則全黒トナラム。賴義喜ビ。遂ニ進勦スト云フ。

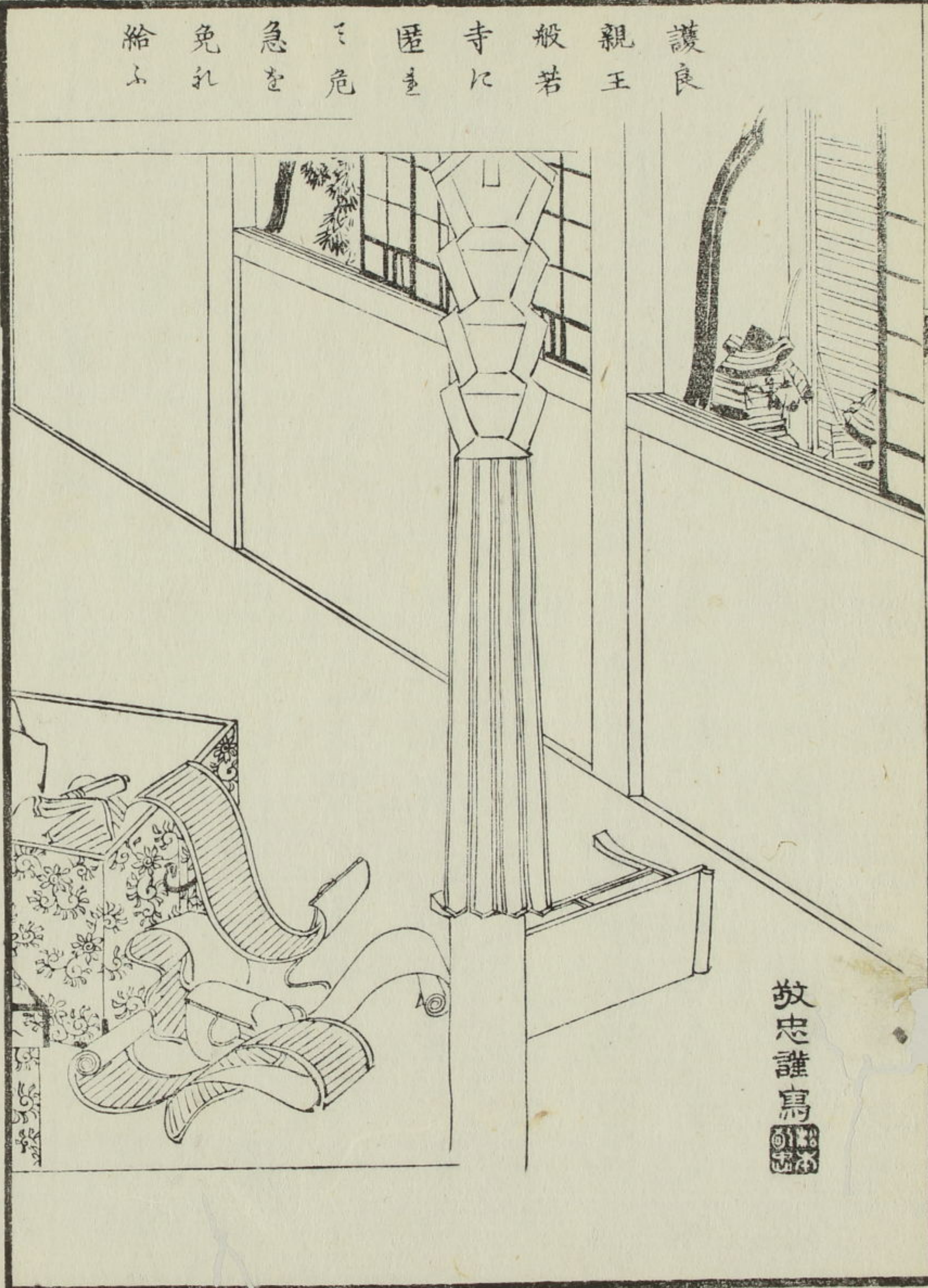
○護良親王。大塔宮ト稱ス。後醍醐天皇ノ第三子ナリ。天皇親王ト與ニ。北條氏ヲ討ゼムコトヲ謀ル。謀泄ルニ及テ。北條高時大ニ懼レ。乃廢立ヲ行ハムコトヲ圖リ。二將ヲ遣ハシ。兵ヲ率テ京ニ入

ラシム。時ニ親王延曆寺座主タリ。謀シテ其謀ヲ知リ。天皇ニ教テ。笠置山ニ幸セシメ。而シテ自爲宗良親王ト與ニ兵ニ將トシ。邀撃シテ賊ヲ破ル。已ニシテ兵潰ユ。宗良親王ト。路ヲ分テ走リ。奈良ニ至テ。般若寺ニ匿ル。會行在陷ル。賊兵來テ般若寺ヲ圍ム。時ニ從者皆外出ス。親王爲ス所ヲ知ラズ。將ニ刀ヲ引テ自盡セムトス。傍ニ三經函有リ。其一ハ經ヲ出スコト過半ナリ。乃跳テ其中ニ入り。經ヲ以テ自覆ヒ。刀ヲ心ニ擬シテ伏ス。賊兵遍ク佛殿ヲ索メ。遂ニ經函ニ及ブ。而シテ親王匿ル

力學綱要卷之五  
六  
宮內省藏



護良親王般若寺に  
急を危に  
免れ給ふ



故忠謹寫

外學綱要卷之五  
宮內省藏

所ノ函。蓋ノ開ケタルヲ以テ。怪マズシテ去ル。親  
 王度ル。彼一索シテ得ズ。後必復來リ索メム。急ニ  
 別函ニ移ル。賊兵果シテ還リ。嚮ニ匿ル所ノ函中  
 ヲ索ム。復得ズ。乃去ル。親王赤松則祐村上義光等  
 ト與ニ。裝テ修驗者ト爲リ。熊野ニ赴ク。峻嶺深谷。  
 無人ノ處ヲ歷テ。重鹵饑困シ。旬餘ニシテ。始テ十  
 津川ニ抵ル。從者粟飯椽粥ヲ得テ之ヲ進ム。親王  
 遂ニ土豪戸部兵衛ニ依リ。傍近稍。心ヲ歸ス。居ル  
 コト數月。賊重利ヲ以テ。親王ヲ購ス。是ニ由テ。十  
 津川熊野ノ土豪。皆異心ヲ生ズ。親王乃衆ト與ニ。

潛ニ吉野ニ赴ク。賊兵ノ柵ヲ結テ。路ヲ遮ルニ値  
 フ。從者二人ヲ遣シテ之ヲ誘ハシム。應ゼズ。一人  
 鬪死シ。一人還リ報ズ。親王免レザルコトヲ知リ。  
 將ニ自盡セムトス。會紀伊ノ人野長瀬六郎等。兵  
 ヲ率テ來リ援ク。賊兵戰ハズシテ潰ユ。親王遂ニ  
 兵ヲ吉野ニ起シ。寺ニ據テ。城ト爲ス。是時天皇隱  
 岐ニ在リ。親王間ニ上書シテ事ヲ言フ。又則祐ヲ  
 遣ハシ。其父則村ニ諭シテ。兵ヲ播磨ニ起サシメ。  
 又令ヲ諸國ニ下ス。之ニ應ズル者多シ。已ニシテ  
 賊將二階堂貞藤等ノ大兵來リ攻ム。甚急ナリ。親



王親ヲ眉尖刀ヲ執リ。左右二十餘人ヲ率テ。縱橫  
 奮戰シ。賊兵披靡ス。親王傷ヲ被リ。流血淋漓タリ。  
 退テ幕中ニ入り。將士ト談飲ス。義光外城已ニ陷  
 ルヲ以テ。親王ニ勸テ。間道ヨリ脱レ去ラシム。道  
 ニテ又賊兵ニ邀ヘラレ。僅ニシテ免ルコトヲ得  
 タリ。貞藤。親王高野山ニ在リト聞キ。兵ヲ縱テ大  
 ニ山中ヲ索ム。僧徒之ヲ保匿シ。得ルコト能ハズ  
 シテ去ル。新田義貞間ニ令ヲ奉ジテ勤王セムト  
 請ハシム。親王乃之ヲ與フ。未幾クナラズシテ。天  
 皇船<sup>フネ</sup>上<sup>ウ</sup>ニ幸シ。官軍大ニ振フ。親王志貴山ニ往キ。

則村賊ヲ京師ニ攻テ利アラズト聞キ。令ヲ延曆  
 寺ノ僧徒ニ下シテ。則村ヲ助ケシム。會義貞。高時  
 ヲ誅シ。足利尊氏等。京師ヲ復シテ。車駕闕ニ還ル。  
 史ニ稱ス。親王天資雄勇ニシテ。武藝倫ヲ絶シ。王  
 ノ愾ニ歎シテ。彊寇ヲ殄サムト誓ヒ。艱楚嶮嶽幾  
 ムト九死ニ瀕シ。終ニ能ク牙ヲ吉野ニ建テ。四方  
 ニ號令ス。義貞則村。東西義ヲ起シテ。車駕正ニ反  
 ルハ。親王ノ功多キニ居レリ。  
 ○松平信綱。武藏國川越ヲ領ス。領内ニ邑アリ。野  
 火止ト曰フ。土瘠テ水匱ク。田里蕭條タリ。代官安

松金右衛門建議シテ曰ク。宜ク新渠ヲ鑿テ。玉河ノ水ヲ引クベシ。則以テ稻田ヲ開クコトヲ得ム。信綱其費ス所ヲ問フ曰ク。三千金ナリ。信綱曰ク。願フニ吾此ニ久キ者ニ非ズ。然ドモ三千金ヲ以テ。後人ヲ利ス。亦我ノ職ノミ。乃命ジテ其事ヲ督サシム。是ニ於テ。金右衛門役夫數百人ヲ集メ。渠ヲ鑿ツコト十有六里。小川村ヨリ。新河岸ニ達ス。既ニ成テ。水至ラズ。渠中唯沮洳ノミ。信綱怪テ之ヲ詰ル。金右衛門曰ク。臣亦其理ヲ解セズ。願クハ且ク明年ヲ待タム。明年ニ至テ。水尚至ラズ。信綱

又金右衛門ヲ讓テ曰ク。汝特ニ地勢ノ高低ヲ察セザルノミ。金右衛門曰ク。否ラス。臣今ニシテ悟ル所アリ。古ニ云ク。河潤九里ト。今此地タル。武野曠漠ノ中ニ居リ。土燥テ風多ク。塵ヲ吹テ座ニ滿チ。客至ル毎ニ。輒席ヲ掃フ。今年ハ獨然ラズ。諸菜ノ繁滋スルコト。亦前日ト異ナリ。是河潤新渠ニ由テ。地ニ入ルコト深キガ故ナリ。水今必至ラム。其明年。一夕大ニ雨フリ。聲ノ雷ノ如キ有リ。俄ニシテ奔流衝決シ。十六里ノ間。一時ニシテ盈チ。新河岸ニ達ス。信綱喜テ曰ク。金右衛門三年ノ久キ

ヲ歷テ其志ヲ挫カズ。洵ニ感賞ス可シ。命ジテ其  
 祿ヲ増ス。後遂ニ顯職ニ至ル。  
 ①伊藤維楨。仁齋ト號ス。平安ノ人ナリ。家世賈ヲ  
 業トス。維楨ニ至テ。始テ儒術ヲ治メ。刻苦自勵ム。  
 親戚之ヲ沮テ曰ク。儒トナルハ。醫ト爲ルノ售レ  
 易キニ如ザルナリ。維楨從ハズ。既ニシテ貧窶益  
 甚シク。沮ム者已マズ。而シテ維楨志ヲ執ルコト  
 益堅シ。後遂ニ大儒ト爲ル。嘗テ歲暮ニ值テ。糲糒  
 ヲ得ルコト能ハズ。妻跪キ言テ曰ク。家道ノ艱難。  
 妾ハ固ヨリ之ヲ甘ムズ。忍ビザル所ノ者ハ。孺子

無知。人家ノ餐アルヲ見テ。之ヲ羨ミ。連求シテ已  
 マズ。口能。譙呵スルモ。腸ハ則斷絶ス。言畢テ泣下  
 ル。維楨凡ニ隱テ書ヲ閱シ。默然トシテ應ゼズ。直  
 ニ著ル所ノ外套ヲ脱テ之ニ投ク。

①漢ノ張良其先ハ韓人ナリ。秦ノ始皇ノ時。嘗テ  
 間歩シテ下邳ノ圯上ニ游ブ。一老父ノ褐ヲ衣タ  
 ル有リ。良ノ所ニ至リ。直ニ履ヲ圯下ニ墮シ。顧ミ  
 良ニ謂テ曰ク。孺子下テ履ヲ取レ。良愕然トシテ。  
 之ヲ歐ムト欲ス。其老イタルガ爲ニ。乃強忍シ。下

テ履ヲ取ル。因テ跪キ進ム。父足ヲ以テ之ヲ受ケ。笑テ去ル。父去ルコト里所ニシテ。復還リ曰ク。孺子教フ可シ。後五日ノ平明ニ。我ト此ニ會セヨ。良因テ之ヲ怪ミ。跪テ曰ク。諾。五日ノ平明ニ良往ク。父已ニ先、在リ。怒テ曰ク。老人ト期シテ。後レタルハ何ゾヤ。去レ。後五日蚤ニ會セヨ。五日ノ雞鳴ニ往ク。父又先、在リ。復怒テ曰ク。後レタルハ何ゾヤ。去レ。後五日復蚤ニ來レ。五日ニシテ。良夜半ニ往ク。頃有テ。父亦來ル。喜テ曰ク。當ニ是ノ如クナルベシ。一編ノ書ヲ出シテ曰ク。此ヲ讀バ。則王者ノ

師ト爲ラム。遂ニ去テ見エズ。且日其書ヲ視レバ。乃太公ノ兵法ナリ。良因テ之ヲ異トシ。常ニ習誦ス。遂ニ高祖ヲ佐ケテ。秦ヲ破リ。楚ヲ亡シ。漢ノ帝業ヲ立ツ。

○漢ノ韓信ハ。淮陰ノ人ナリ。家貧シ。嘗テ下郷南昌ノ亭長ニ從テ食ス。亭長ノ妻之ヲ苦ム。信去リ。城下ニ至テ釣ス。一漂母有リ。之ヲ哀テ。信ニ飯スルコト數十日。信漂母ニ謂テ曰ク。吾必重ク母ニ報ゼム。母怒テ曰ク。大丈夫自食スルコト能ハズ。吾王孫ヲ哀テ。食ヲ進ム。豈報ヲ望マムヤ。淮陰ノ

漢の韓信少年の  
侮辱を忍ぶ



楓湖

少年。又信ヲ侮テ曰ク。長大ニシテ。好テ刀劔ヲ帶  
アト。雖モ。中情ハ怯キノミ。之ヲ衆辱シテ曰ク。能  
ク死セバ。我ヲ刺セ。死スルコト能ハズバ。跨下ヲ  
出ヨ。是ニ於テ。信熱視シ。俛テ跨下ヲ出ヅ。一市皆  
信ヲ笑ヒ。以テ怯シト爲ス。後ニ漢ノ大將ト爲リ。  
高祖ヲ佐ケテ。楚ヲ滅シ。天下ヲ定ム。蕭何張良ト  
并セテ。三傑ト稱ス。

○唐ノ張公藝。九世同居ス。北齊隋唐。皆其門ニ旌  
表ス。麟德中。高宗泰山ニ封ズ。其宅ニ幸シ。公藝ヲ  
召シ見テ。能ク族ヲ睦スル所以ノ道ヲ問フ。公藝

紙筆以テ對ヘムト請ヒ。乃忍ノ字百餘ヲ書シテ  
以テ進ム。其意ニ以爲ク。宗族ノ協ハザル所以ハ。  
尊長ノ衣食。或ハ均シカラザルコト有リ。卑幼ノ  
禮節。或ハ備ハラザルコト有リ。更ニ相責望スル  
ニ由テ。遂ニ乖争ヲ爲ス。苟モ能ク相與ニ之ヲ忍  
ム。則家道雍睦ス。  
○唐ノ狄仁傑。武后ノ時。同平章事トナル。武后ハ。  
高宗ノ后ナリ。高宗崩ジ。中宗立ツ。后帝ヲ廢シテ。  
廬陵王ト爲シ。國號ヲ改テ周ト曰ヒ。皇帝ト稱ス。  
唐ノ宗室。殺戮殆ムト盡キ。大臣以下。坐死及ビ流

貶セラルル者。勝紀ス可ラズ。仁傑亦來俊臣ニ構  
 ヘラレ。獄ニ下ル。時ニ反者ヲ訊フニ。一問シテ即  
 承レバ。死ヲ減ズルコトヲ聽ス。俊臣此ヲ以テ之  
 ヲ誘フ。仁傑曰ク。大周命ヲ革テ。萬物維新ナリ。唐  
 室ノ舊臣。刑戮ニ從フコトヲ甘ズ。反ハ是實ナリ。  
 俊臣其屬王德壽ヲシテ仁傑ニ教テ。平章事楊執  
 柔ヲ引カシム。仁傑曰ク。皇天后土。仁傑ヲ遣ハシ  
 テ此事ヲ爲サシメムヤ。首ヲ以テ柱ニ觸ル。血流  
 テ面ヲ沫ス。德壽懼テ之ヲ謝ス。后其冤ヲ知り。死  
 ヲ免シ。貶レテ縣令ト爲ス。久クシテ。幽州都督ヨ

リ。復入テ同平章事トナル。武承嗣武三思太子ト  
 爲ラムコトヲ營求シ。數人ヲシテ后ニ説カシム。  
 后ノ意未決セズ。仁傑毎ニ從容トシテ后ニ言テ  
 曰ク。文皇帝。風ニ櫛リ。雨ニ沐シ。親ラ鋒鏑ヲ冒シ。  
 以テ天下ヲ定メ。之ヲ子孫ニ傳ヘ。大帝。二子中宗睿宗  
 ヲ以テ陛下ニ託ス。今乃之ヲ他族ニ移サムト欲  
 ス。乃天意ニ非ル無カラムヤ。且姑姪ト母子ト。孰  
 カ親シキ。陛下子ヲ立レバ。千秋萬歳ノ後。太廟ニ  
 配食シテ。承繼窮リ無カラム。姪ヲ立レバ。未姪天  
 子ト爲テ。姑ヲ廟ニ附スル者ヲ聞カズ。又廬陵王

ヲ召還セムコトヲ勸ム。后感悟シ。遂ニ房州ヨリ。廬陵王ヲ召テ都ニ還シ。立テ太子ト爲ス。后嘗テ一佳士ノ用キテ將相ト爲スベキ者ヲ得ムト欲シ。仁傑ニ問フ。仁傑張柬之ヲ薦ム。卒ニ用キテ相ト爲ス。又嘗テ姚元崇桓彥範敬暉等數十人ヲ薦ム。率ネ名臣ト爲ル。仁傑卒スルノ後五年。張柬之。崔玄暉桓彥範敬暉等ト與ニ。兵ヲ舉テ。内亂ヲ討ジ。后ヲ上陽宮ニ遷シ。中宗位ニ復リ。國號ヲ復シテ唐ト曰フ。史ニ稱ス。武后唐ノ中衰ニ乘ジテ。殺生ノ柄ヲ操リ。天下ヲ刼制シテ。神器ヲ攘ム。仁傑

恥ヲ蒙テ忠ヲ奮ヒ。以テ大謀ヲ權リ。張柬之等ヲ引キ卒ニ唐室ヲ復シ。功一時ヲ蓋ヒテ。人知ルニ及バズ。

力學綱要 卷之五 〇十五 宮内省藏



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

貞操第十三

女子父母ノ家ニ在ルトキハ。幽間静淑。敢テ  
非禮ニ從ハズ。嫁シテ人ノ妻ト為ルトキハ。  
又終身他靡ク。事變ニ遭テ。其守ヲ易ヘズ。是  
ヲ之。貞操ト謂フ。婦徳ノ尤大ナル者ナリ。故  
ニ柔順惠和。要訓ニ非ル無シト雖モ。特ニ此  
ヲ以テ先トス。婦女其レ之ヲ體セザル可ケ  
ムヤ。

○易曰。恒ニ其徳ヲ貞。

○禮曰。壹與之齊。終身不改。

○詩曰。鬢彼兩髦。實維我儀。之死矢靡他。

○又曰。我心匪石。不可轉也。我心匪席。不可卷也。

○論語曰。不曰堅乎。磨而不磷。不曰白乎。涅而不緇。

○又曰。歲寒然後知松柏之後凋也。

○家原音那ハ。左大臣多治比島ノ妻ナリ。紀音那ハ。贈右大臣大伴御行ノ妻ナリ。竝ニ婦徳有リ。和銅中。詔シテ曰ク。家原音那。紀音那。竝ニ夫存スルノ日。爲國ノ道ヲ相勸メ。夫亡スルノ後。同墳ノ意ヲ固守スルヲ以テ。朕彼貞節ヲ思テ。感歎之深シ。

各邑五十戸ヲ賜ヘ。

○漢部妹刀自賣ハ。丹波國伊鹿郡ノ人ナリ。年十四ニシテ。秦貞雄ニ適キ。二男一女ヲ生ム。貞雄亡

後。節ヲ守ルコト三十二年。身常ニ素服ヲ著ケテ。

獨虛室ニ居リ。男女ヲ養フコト均壹ナリ。仁和中。

國司請テ其門閭ニ表ス。勅シテ位ニ階ニ叙シ。其

家ノ田租ヲ免ス。

○四比信紗ハ。大和國有智郡ノ人民果安ノ妻ナ

リ。果安亡後。積年志ヲ守ル。妾ノ生ム所ヲ拜セテ。

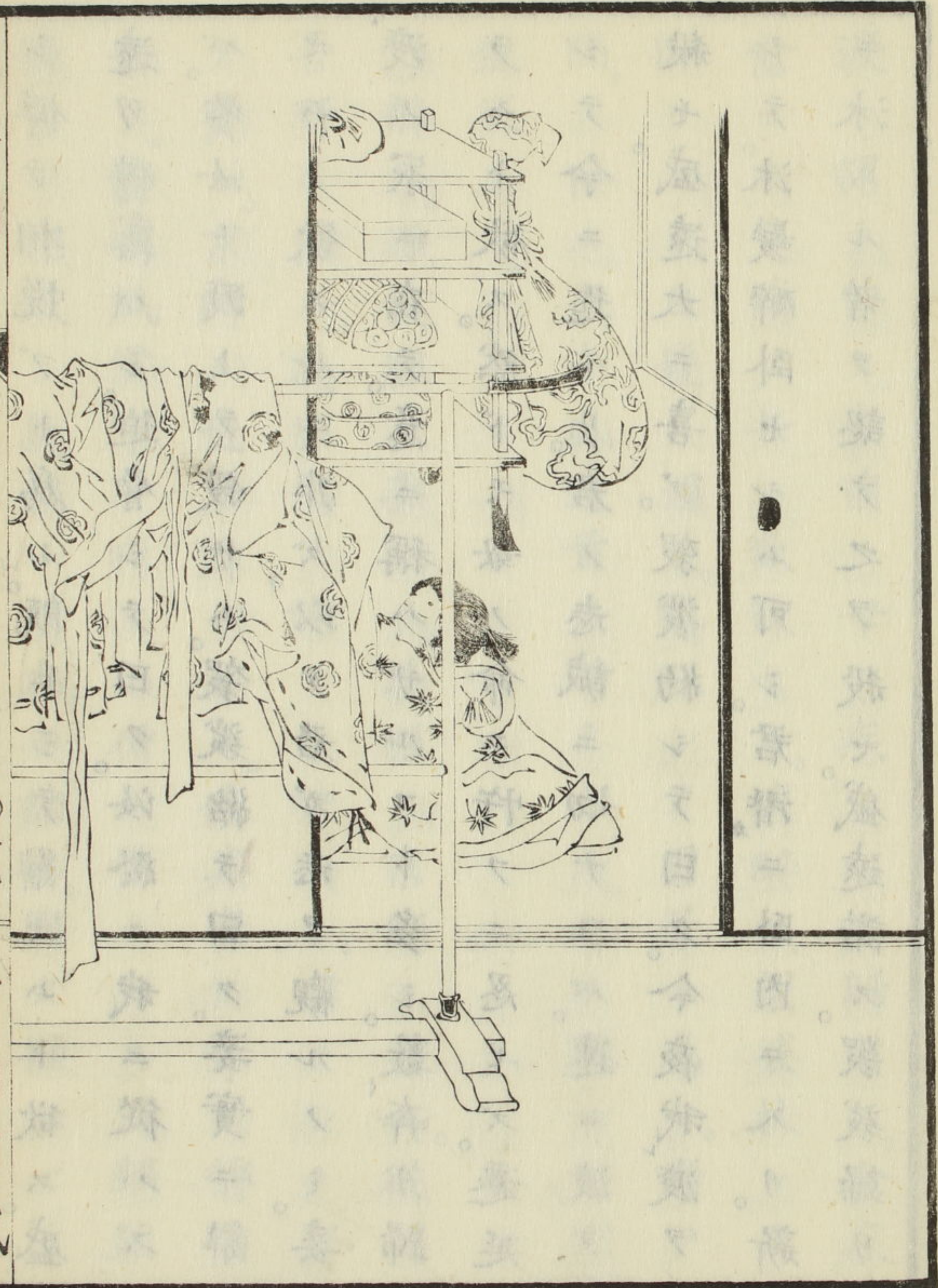
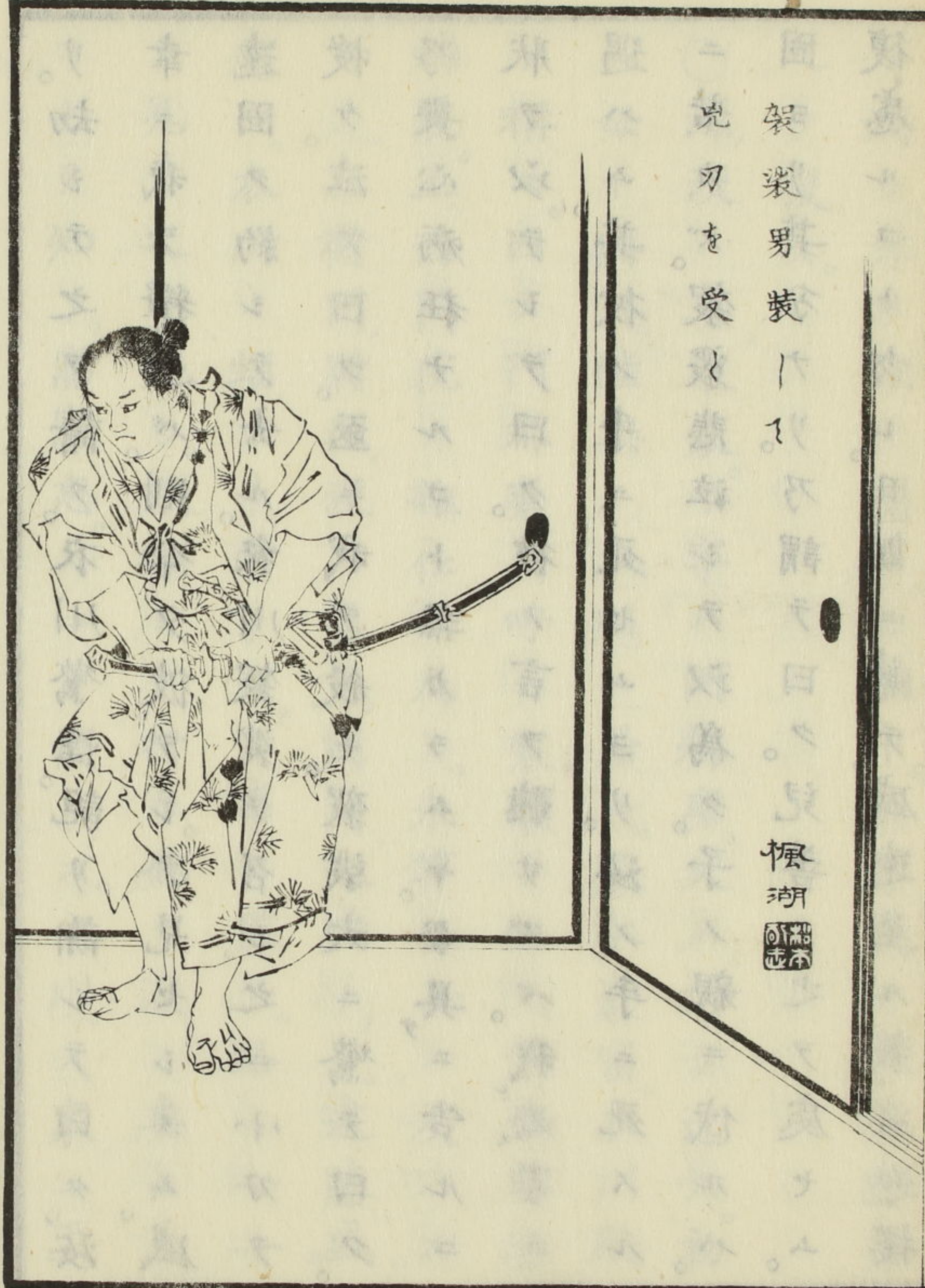
八子アリ。撫養別無シ。舅姑ニ事ヘテ。能ク婦ノ禮

ヲ竭シ。孝ヲ以テ聞ユ。和銅中。其孝義ヲ旌シ。終身  
 之ヲ復ス。  
 ○源渡ノ妻。袈裟。小字ハ阿都磨。父ノ名ヲ逸ス。初  
 メ母ト與ニ。陸奥ノ衣川ニ居ル。家本豪富。衣川殿  
 ト稱ス。因テ阿都磨ヲ呼テ。袈裟ト曰フ。袈裟容姿  
 端麗。上西門院ノ雜仕ト爲ル。未笄スルニ。及バズ  
 シテ。左衛門尉源渡ニ適キ。閨門雍睦ナリ。遠藤盛  
 遠ハ。衣川ノ甥ナリ。嘗テ出テ事ヲ監シ。路ニ一女  
 ヲ見テ之ヲ艶シ。蹤跡シテ行キ。始テ渡ノ妻タル  
 コトヲ知リ。寤寐忘ルコト能ハズ。衣川ノ家ニ至

リ。劫シテ之ヲ請フ。衣川驚惶。詭リ謝シテ曰ク。汝  
 幸ニ我ヲ釋サバ。則今夕彼ヲシテ見セシメム。盛  
 遠固ク約シテ去ル。衣川袈裟ヲ召シ。之ニ小刀ヲ  
 授ケ。泣テ曰ク。亟ニ我ヲ殺セ。袈裟大ニ驚テ曰ク。  
 乃喪心病狂ナルコト無カラムヤ。母具ニ告ルニ  
 狀ヲ以テシテ曰ク。彼ノ言ヲ聽サズバ。我必害ニ  
 遇ハム。其彼ノ手ニ死セムヨリ。汝ノ手ニ死スル  
 ニ若カズ。袈裟悲泣シテ以爲ク。子ノ親ニ代ルハ。  
 固ヨリ其分ナリ。乃謂テ曰ク。兒善ク之ヲ處セム。  
 復慮ルコト勿レ。日既ニ暮テ。盛遠至ル。袈裟迎接

装束男装

楓湖

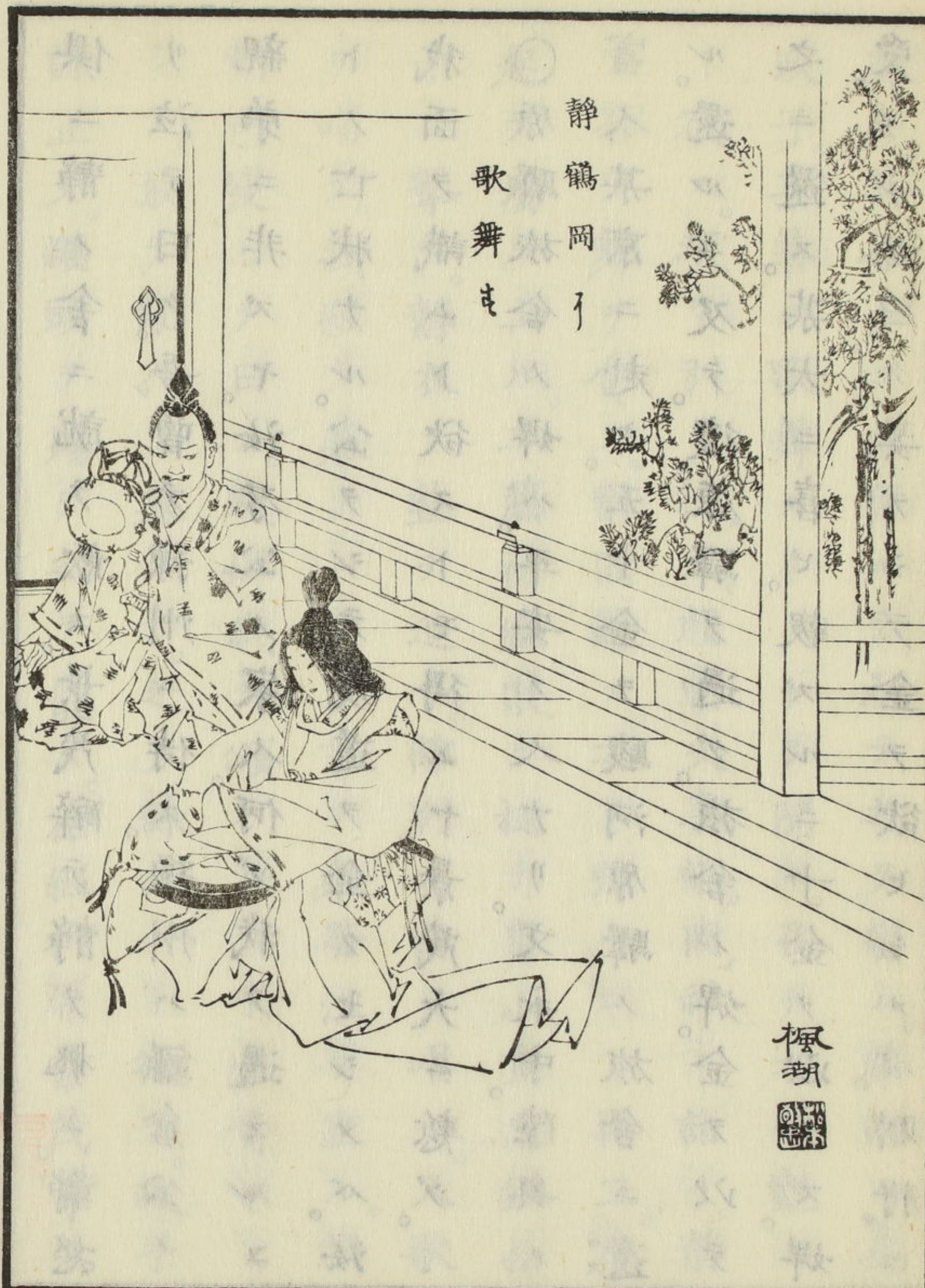
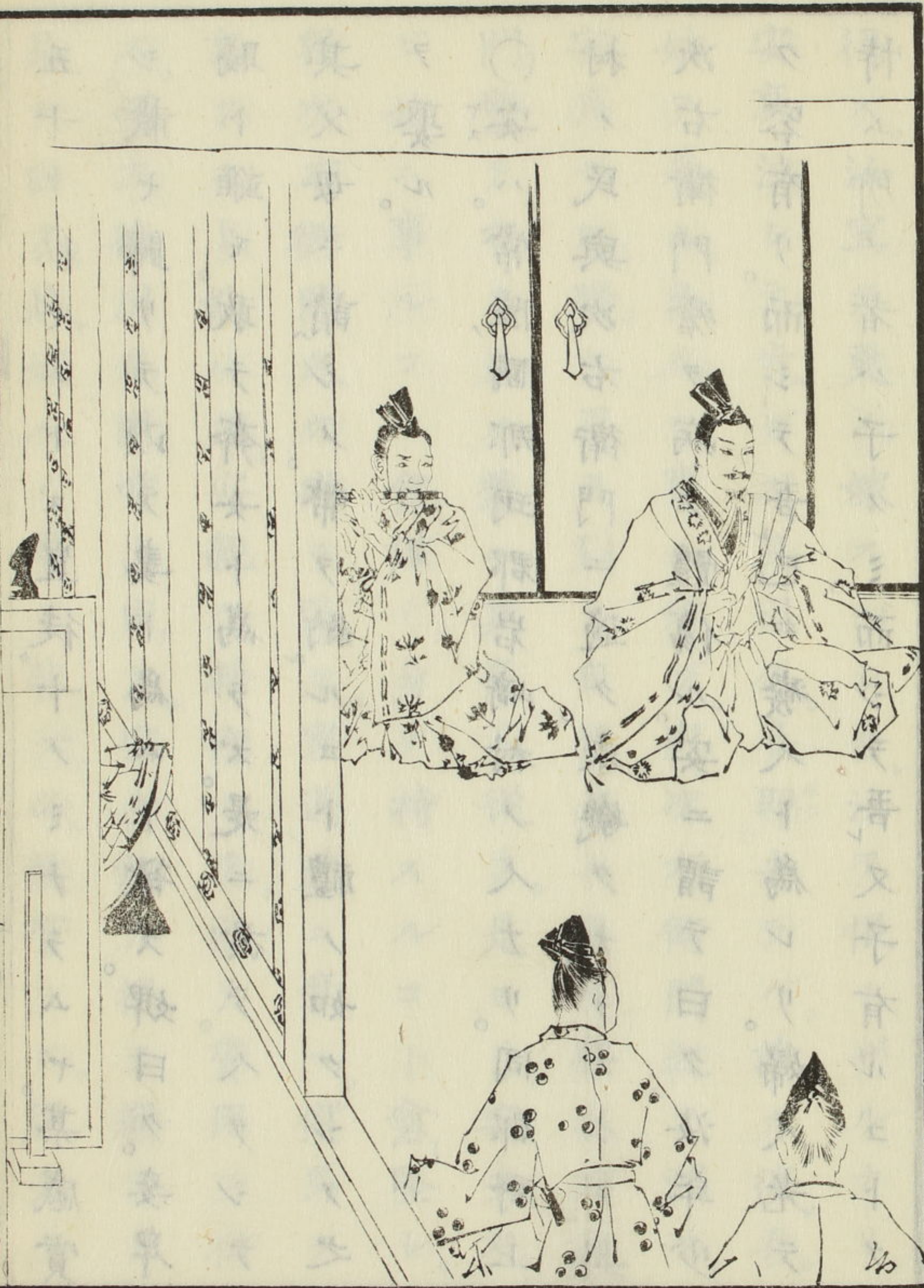


シ佯テ相悦ブト爲シ。既ニシテ辭セムト欲ス。盛  
遠刃ヲ露ハシ。迫脅シテ曰ク。汝終ニ我ニ從ハズ  
バ。必汝ト渡トヲ殺サム。袈裟紹テ曰ク。妾實ニ辭  
セムト欲スルニ非ズ。以テ君ガ志ヲ觀ルノミ。妾  
渡ノ家ニ在テ。意ニ稱ハザルコト多シ。數奔リ歸  
ラムト欲ス。然ドモ母ノ命ニ忤フニ忍ビズ。遷延  
シテ今ニ迄レリ。君ノ志誠ニ切ナラバ。速ニ渡ヲ  
殺セ。盛遠大ニ喜ブ。袈裟約シテ曰ク。今夜我渡ヲ  
シテ。沐髮醉卧セシム可シ。君潛ニ卧内ニ入り。新  
ニ沐スル者ヲ認テ之ヲ殺セ。盛遠諾ス。袈裟歸リ

渡ニ謂テ曰ク。妾前ニ母ノ疾ヲ以テ歸省ス。今疾  
愈エタリ。請フ共ニ歡飲セム。渡醉ス。袈裟扶ケテ  
卧サシメ。自髮ヲ濡シ。詭服シテ男子ト爲リ。席ヲ  
隔テ卧ス。夜半盛遠首ヲ斬テ去ル。之ヲ視レバ則  
袈裟ナリ。  
○靜ハ。源義經ノ妾ナリ。義經ノ京師ヲ去ル。從テ  
吉野ニ匿ル。義經之ヲ諭シテ訣別シ。僕ヲシテ資  
ヲ齎シ。京師ニ送り歸サシム。僕其資ヲ奪テ靜ヲ  
棄ツ。靜獨風雪中ヲ行キ。山僧ニ捕ヘラル。源賴朝  
鎌倉ニ招致シ。義經ノ所在ヲ詰ル。固ク知ラズト

陳ス其姓ムコト有ルヲ以テ之ヲ留ム。賴朝ノ妻  
政子其善ク歌舞スルコトヲ聞キ召テ之ヲ觀ム  
ト欲ス疾ヲ引テ往ス。賴朝夫妻鶴岡社ニ詣リ靜  
ヲ召テ舞ヲ命ズ。靜固辭ス之ヲ強ルコト再三乃  
起テ場ニ上ル。工藤祐經鼓ヲ搥テ畠山重忠銅拍  
子ヲ擊ツ。靜衣ヲ整テ進ミ離別ノ曲ヲ唱ヘ。又歌  
ヲ唱テ義經ヲ慕フノ意ヲ言フ衆皆泣ヲ垂ル。賴  
朝色變ジテ曰ク賤婢我ヲ頌スルコトヲ肯ゼズ  
シテ敢テ亂人ヲ慕フヤ之ヲ誅セムト欲ス。政子  
諫止ス。纏頭ヲ賜テ之ヲ罷ム。祐經柁原景茂等ト。

俱ニ靜ノ舍ニ就テ飲ス。景茂醉テ靜ヲ挑ム。靜怒  
リ泣テ曰ク吾曾テ豫州ニ侍ス。豫州ハ鎌倉公ノ  
親弟ニ非ズヤ。汝乃公ノ家人何ゾ我ヲ遇スルコ  
トノ亡狀ナル。公ヲシテ友道ヲ全クセシメバ。汝  
我面ヲ識ムト欲ストモ得ムヤ。景茂大ニ慙ヅ。  
○原驛旅舎ノ婢ハ平安ノ人ナリ。文中陸奥ノ  
富人某京ニ赴キ五十金ヲ駿河原驛ノ旅舎ニ遺  
ル。還ルニ及テ復原驛ヲ過グ。旅舎ノ婢金ヲ以テ  
之ニ還ス。某大ニ喜ビ報ズルニ十金ヲ以テス。婢  
受ズシテ曰ク妾ヲシテ金ヲ欲セシメバ則將ニ



静  
鶴岡  
歌舞  
也

楓  
初

五十ヲ私セムトス豈徒十ノミナラムヤ。其感賞  
シ。載セ歸リテ以テ妻ト爲ムト欲ス。婢曰ク。妾卑  
賤ト雖モ。敢テ奔女ト爲ラズ。是ニ於テ。人ヲシテ  
其父母ニ請シメ。幣ヲ納ルコト禮ノ如クシテ之  
ヲ娶ル。

○安ハ。常陸國那珂郡岩崎村ノ人ナリ。同郡野上  
村ノ民與次右衛門ニ適ク。未幾クナラズシテ。與  
次右衛門瘡ヲ病テ體傷ル。安ニ謂テ曰ク。汝年少  
ク容有リ。而シテ吾已ニ癡人ト爲レリ。婦人老テ  
恃ム所ノ者ハ子ノミ。而シテ吾又子有ルコトヲ

得ズ。汝宜ク更メ嫁スベシ。吾汝ヲ恨ミザルナリ。  
安哀泣シテ肯ゼズ。且曰ク。妾即去ラバ。誰カ復吾  
姑ヲ養ヒ。良人ニ事ル者ゾ。與次右衛門之ヲ強フ。  
安應ゼズ。將ニ刀ヲ引テ自殺セムトス。與次右衛  
門驚テ之ヲ止メ。遂ニ其意ニ從フ。是ヨリ。安夫及  
ビ姑ニ事ルコト愈謹シ。身ヲ持スルコト愈堅シ。  
與次右衛門久ク病ニ卧テ。家道遂ニ衰へ。僕馬ヲ  
畜フコト能ハズ。安親ヲ耕作シテ。以テ資用ニ供  
ス。領主徳川光圀嘗テ出テ。安ガ鋤ヲ操テ耕スヲ  
見テ曰ク。此婦人ノ事ニ非ズ。必故有ラム。從者ヲ



シテ之ヲ問ハシム。安具ニ對ルニ實ヲ以テス。光  
圀感歎シ。直ニ往テ與次右衛門ヲ視。安ニ金若干  
ヲ賜ヒ。遂ニ其家ノ租税ヲ除ク。傍近ノ富人ノヲ  
聞キ。亦夫婦ヲ賑賙セリト云フ。

○楚ノ白貞姫ハ。楚ノ白公勝ノ妻ナリ。白公早ク  
死ス。貞姫紡績シテ嫁セズ。吳王其美ヲ聞キ。大夫  
ヲシテ金百鎰。白璧一雙ヲ持シテ以テ聘シ。輜軒  
三十乘ヲ以テ之ヲ迎ヘシメ。將ニ以テ夫人ト爲  
サムトス。貞姫辭シテ曰ク。白公恙無キ時。妾幸ニ

後宮ニ充テ。箕箒ヲ執ルコトヲ得タリ。今白公不  
幸ニシテ死ス。妾願クバ其墳墓ヲ守リ。以テ天年  
ヲ終ラム。今王金璧ノ聘。夫人ノ位ヲ賜フ。愚妾ノ  
聞ク所ニ非ズ。且夫義ヲ棄テ欲ニ從フ者ハ汚ナ  
リ。利ヲ見テ死ヲ忘ル者ハ貪ナリ。貪汚ノ人。王何  
ゾ用ム。妾聞ク忠臣ハ人ニ借スニカヲ以テセズ。  
貞女ハ人ニ假スニ色ヲ以テセズ。豈獨生ニ事ル  
コト此ノ如キノミナラムヤ。死ニ於テ亦然リ。妾  
既ニ不仁ニシテ。死ニ從フコト能ハズ。今又去テ  
嫁セムハ。亦甚シカラズヤ。遂ニ聘ヲ辭シテ行カズ。

呉王其節ヲ守リ。義ヲ有ツコトヲ賢トシ。號シテ  
 楚ノ貞姫ト曰フ。○漢ノ陳孝婦。年十六ニシテ嫁ス。未子有ラズ。其  
 夫行戍ニ當ル。且ニ行ムトスル時。孝婦ニ屬シテ  
 曰ク。我。生死未知ル可カラズ。幸ニ老母有リテ。他  
 ノ兄弟ノ養ヒニ備ル無シ。吾還ラザルモ。汝肯テ  
 吾母ヲ養ハムヤ。婦應テ曰ク。諾。夫果シテ死シテ  
 還ラズ。婦姑ヲ養テ衰ヘズ。慈愛愈固ク。紡績織紉。  
 以テ家業ト爲ス。終ニ嫁スルノ意無シ。喪ニ居ル  
 コト三年。其父母其少クシテ子無ク。而シテ早ク

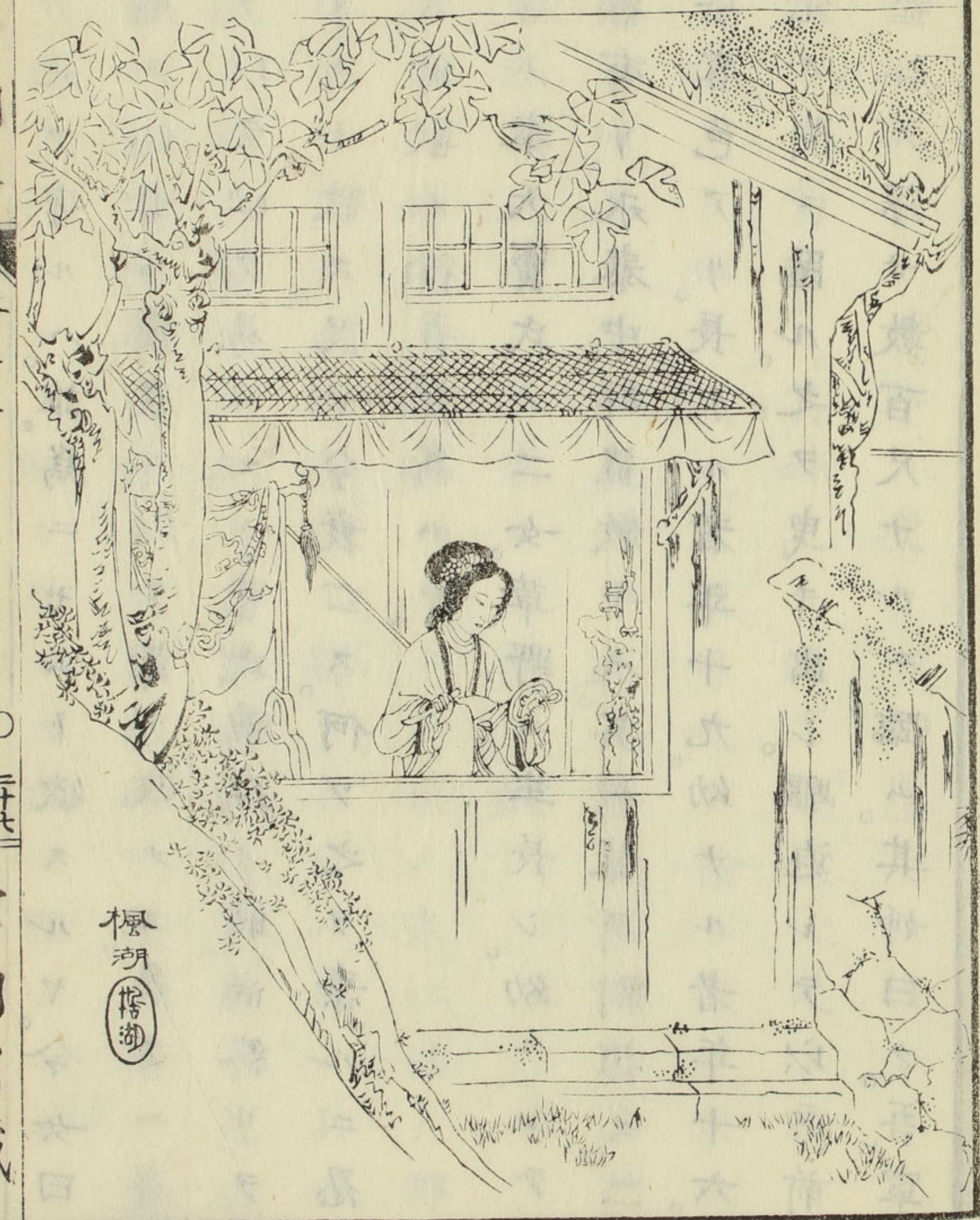
寡ナルコトヲ哀ミ。將ニ取テ之ヲ嫁セムトス。孝  
 婦曰ク。夫去ル時。妾ニ屬スルニ。老母ヲ供養スル  
 コトヲ以テシ。妾既ニ之ヲ許諾セリ。夫人ノ老母  
 ヲ養テ。卒ルコト能ハズ。人ニ許スニ諾ヲ以テシ  
 テ。信ナルコト能ハズバ。將何ヲ以テ世ニ立ム。自  
 殺セムト欲ス。其父母懼テ敢テ嫁セズ。遂ニ其姑  
 ヲ養ハシム。二十四年。姑八十餘。天年ヲ以テ終ル  
 盡ク。其田宅財物ヲ賣テ以テ之ヲ葬リ。終ニ祭祀  
 ヲ奉ズ。淮陽太守以テ聞ス。使者ヲ使ハシテ。黃金  
 四十斤ヲ賜ヒ。之ヲ復シテ。終身與ル所無カラシ

メ。號シテ孝婦ト曰フ。  
○魏ノ曹爽ノ從弟文叔ノ妻ハ。譙郡ノ夏侯文寧ノ女ナリ。名ハ令女。文叔早ク死ス。服闋リ。自年少クシテ子無キヲ以テ。家必<sup>ス</sup>已<sup>レ</sup>ヲ嫁セムコトヲ恐レ。乃髮ヲ斷テ信ト爲ス。其後家果シテ之ヲ嫁セムト欲ス。令女聞キ。即復<sup>ク</sup>刀ヲ以テ兩耳ヲ截リ。居止常ニ爽ニ依ル。爽誅セラレ。曹氏盡ク死スルニ及テ。令女ノ叔父上書シテ曹氏ト婚ヲ絶チ。疆テ令女ヲ迎テ歸ル。時ニ文寧梁相タリ。其少クシテ義ヲ執リ。又曹氏ノ遺類無キコトヲ憐ミ。其意ノ

沮セムコトヲ冀フ。乃人ヲシテ微ク諷スルニ。將ニ他人ニ許サムトスルノ意ヲ以テセシム。令女嘆ジ且泣テ曰ク。吾亦之ヲ惟フニ。之ニ許スコト是ナリ。家以テ信ト爲シ。之ヲ防グコト少シク懈ル。令女是ニ於テ。竊ニ寢室ニ入り。刀ヲ以テ鼻ヲ斷リ。被ヲ蒙リテ卧ス。其母呼テ與ニ語ラシム。應ゼズ。被ヲ發キテ之ヲ視レバ。血流テ床席ニ滿ツ。舉家驚惶シ。往テ之ヲ視。酸鼻セザル莫シ。或之ニ謂テ曰ク。人ノ世間ニ生<sup>ル</sup>ハ。輕塵ノ弱草ニ棲ルカ如キノミ。何ゾ辛苦乃爾ルヤ。且夫家夷滅已ニ

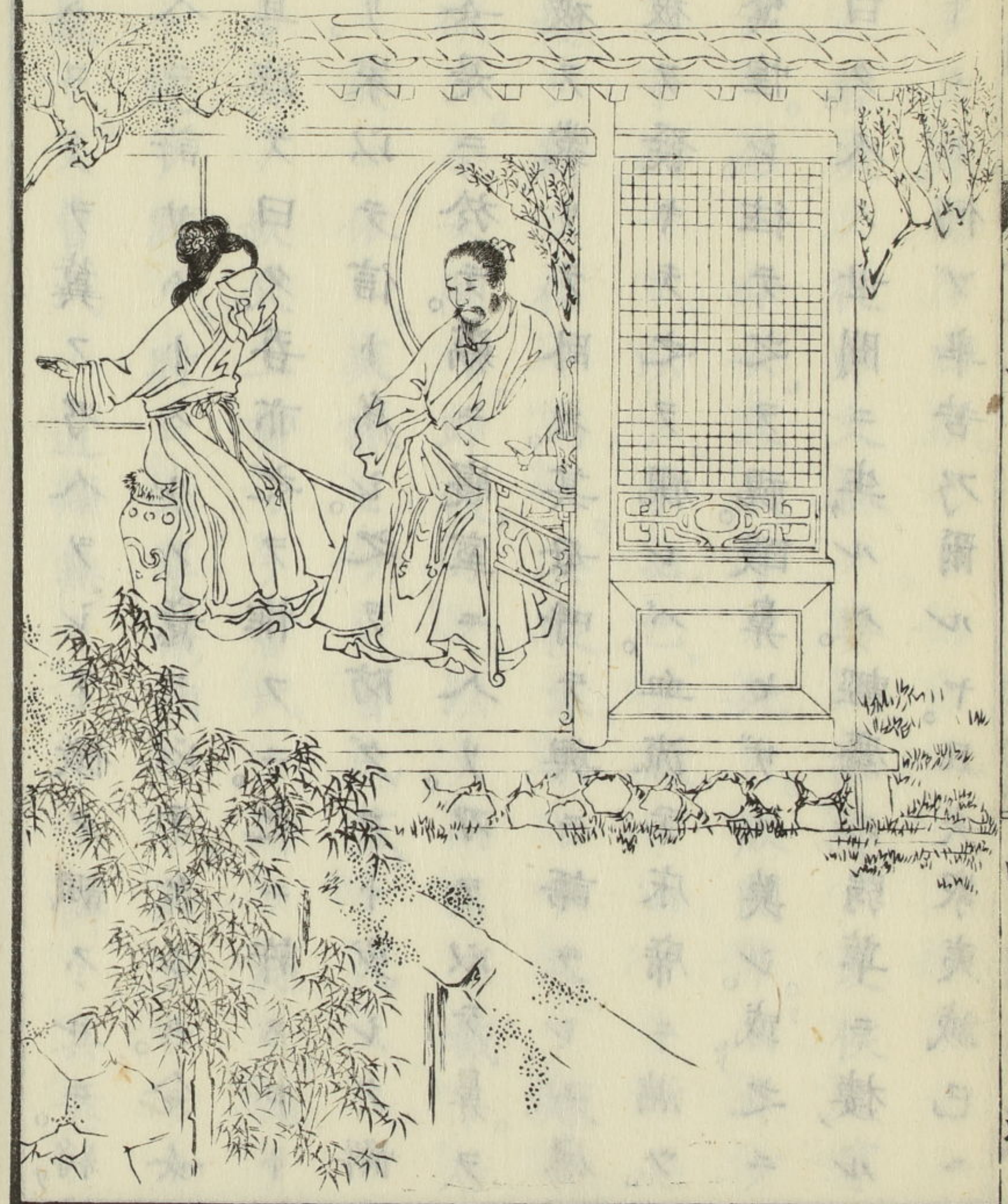
か  
學  
綱  
要  
卷  
之  
五  
〇  
二  
七  
宮  
内  
省  
藏

む 沮 と 議



楓  
湖  
傳  
湖

の 醜 再 て 截 と 鼻 妻 の 叔 文 曹



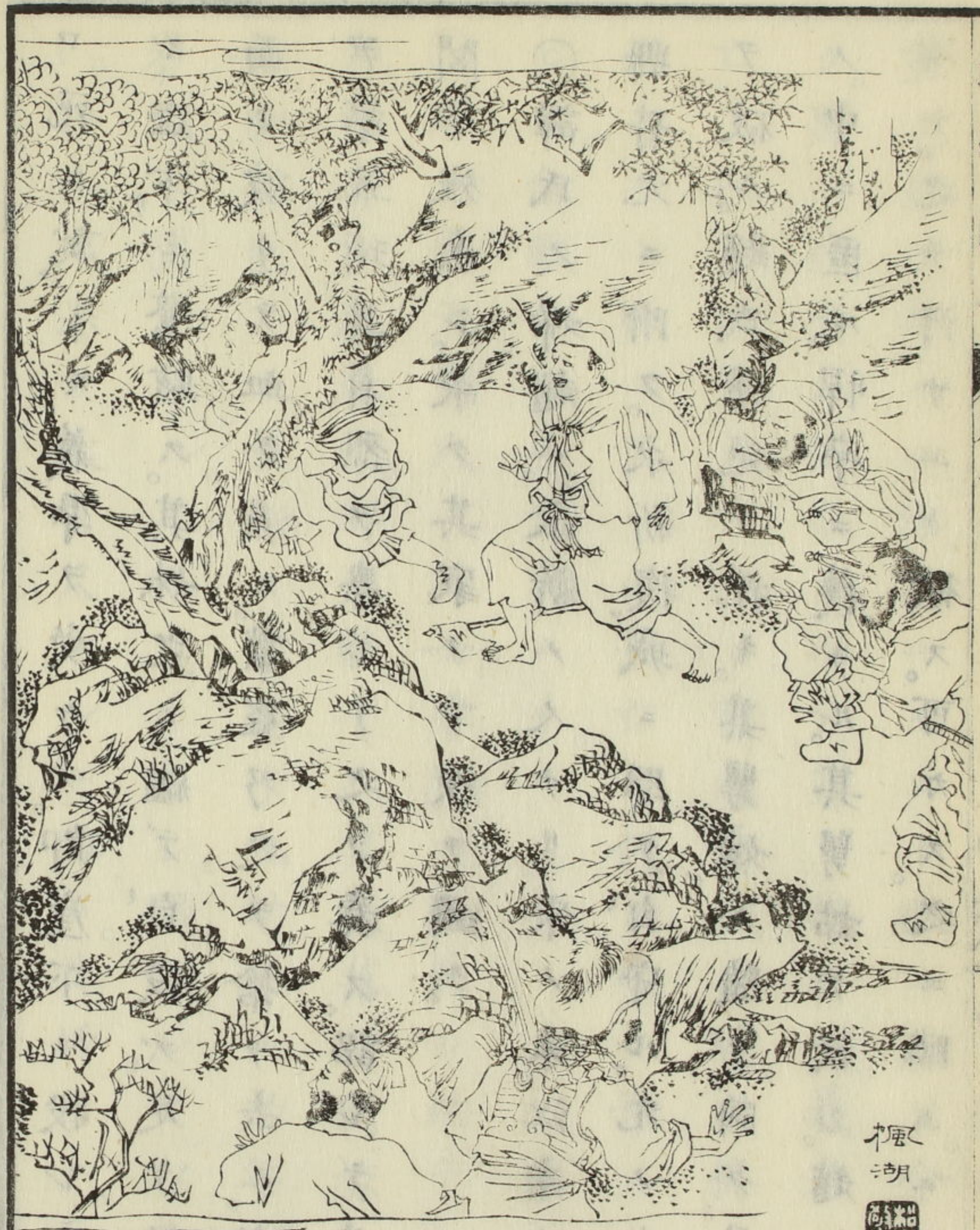
女  
學  
綱  
要  
卷  
之  
五  
宮  
内  
省  
藏

盡ク此ヲ守ルハ誰為ニセムト欲スルヤ。令女曰ク。聞ク仁者ハ盛衰ヲ以テ節ヲ改メズ。義者ハ存亡ヲ以テ心ヲ易ヘズト。曹氏前盛ノ時。尚終リヲ保タムト欲ス。況ヤ今衰亡ス。何ゾ之ヲ棄ルニ忍ビム。禽獸ノ行吾。豈為ムヤ。

○唐ノ奉天竇氏ノ二女。草野ニ生長シ。幼ニシテ志操有リ。永泰中。群盜數千人。其村落ヲ剽掠ス。二女皆容色アリ。長ナル者年十九。幼ナル者年十六。岩穴ノ間ニ匿ル。之ヲ曳キ出シ。驅迫シテ以テ前ニ。壑谷ノ深サ數百尺ナルニ臨ム。其姊曰ク。吾寧

口死ニ就トモ。義辱ヲ受ケズ。即崖下ニ投ジテ死ス。盜方ニ驚駭ス。其妹之ニ繼デ自投ズ。足ヲ折リ面ヲ破リテ血ヲ流ス。羣盜乃之ヲ捨テ去ル。京兆尹第五琦。其貞烈ヲ嘉シテ之ヲ奏ス。詔シテ其門閭ニ旌表シ。永ク其家ノ丁役ヲ蠲ク。

○譚氏ノ婦趙ハ。永新ノ人ナリ。宋ノ末。江南ノ郡縣皆元ニ附ク。永新復城ニ嬰テ自守ル。元ノ兵城ヲ破ル。趙氏嬰兒ヲ抱キ。其舅姑ニ隨テ。同ク邑校ノ中ニ匿ル。悍卒ニ獲ラル。其舅姑ヲ殺シ。趙ヲ執ヘテ。之ヲ汙サムト欲ス。可カズ。之ニ臨ムニ刃ヲ



楓湖  
[Red seal]



寶氏乃姉妹身と  
投て辱免ふ

以テシテ曰ク。我ニ從ハバ則生キム。從ハザレバ則死セム。趙罵テ曰ク。吾舅汝ニ死シ。吾姑又汝ニ死ス。吾其不義ニシテ生ムヨリハ。寧口吾舅姑ニ從テ以テ死セムノミ。遂ニ嬰兒ト同ク害ニ遇フ。血殿蕪兩楹ノ間ヲ漬シ。輒ニ入テ。婦人ト嬰兒トノ狀ヲ爲シ。久クシテ宛然新ナルガ如シ。或ハ磨スルニ沙石ヲ以テスレドモ滅エズ。又煨クニ熾炭ヲ以テス。其狀益顯ハル。

○元ノ闕文興ノ妻王氏名ハ醜醜。建康ノ人ナリ。文興軍ニ漳州ニ從ヒ。其萬戶府知事ト爲ル。王氏

與ニ俱ニ行ク。至元中。陳吊眼亂ヲ作シ。漳州ヲ攻ム。文興兵ヲ率テ與ニ戦ヒ。之ニ死ス。妻王氏掠メラル。義辱ヲ受ケズ。賊ヲ紹テ曰ク。吾夫ヲ葬ルヲ俟テ即汝ニ從ハム。賊之ヲ許ス。王氏遂ニ脱シ。屍ヲ負テ還ルコトヲ得。薪ヲ積テ之ヲ焚ク。火既ニ熾ナリ。即自火中ニ投ジテ死ス。後ニ事聞ス。文興ニ侯爵ヲ贈リ。謚シテ英烈ト曰ヒ。王氏ヲ貞烈夫人ト曰フ。有司爲ニ廟ヲ立テ。歲時祭之。祀也。

○明ノ解縉ノ子頑亮ノ妻ハ。狀元胡廣ノ女ナリ。永樂ノ初メ。縉廣ト與ニ宴ニ文淵閣ニ待ス。太宗

曰ク。縉廣少クシテ業ヲ同クシ。仕ヘテ官ヲ同ク  
ス。今縉子有リ。廣宜ク妻ハスニ女ヲ以テスベシ。  
廣俯首シテ曰ク。臣ノ妻姪ムコト有リ。未男女ヲ  
トセズ。帝曰ク。定メテ女ヲ生マム。疑クコト勿ル  
數月ヲ越テ。廣果シテ女ヲ生ム。遂ニ縉ノ子頑亮  
ニ訂盟ス。既ニシテ縉讒ニ遭テ死シ。舉家邊ヲ成  
ル。胡女未歸クニ及バズシテ。頑亮成行ス。數年ヲ  
逾テ。父母改メ適カシメムト欲ス。女聲ヲ厲マシ  
テ曰ク。薄命ノ婚。皇上之ヲ主トシ。父之ヲ面承シ。  
一タビ之ト盟フ。終身改メシ。況主ニ背キ。父ニ違

ハバ。何ゾ生ヲ用ルコトヲ為ム。遂ニ竊ニ室ニ入  
リ。刀ヲ以テ耳ヲ截ル。家人之ヲ覺リテ往キ救フ  
ニ及ビ已ニ血兩頰ニ被ル。議遂ニ寢ム。仁宗ノ時  
頑亮舉家召シ還ヘサル。女乃解氏ニ歸ス。姑徐氏  
ニ事ルコト。猶孝謹ヲ極ムト云フ。



凡、人義ヲ立テ道ヲ行ハムト欲セバ、廉潔ナ  
ラザル可カラズ。能ク廉潔自持シテ、榮利ニ  
誘ハレズ。而シテ後、義以テ立ツ可シ。道以テ  
行フ可シ。苟モ貪汙ノ心有テ、為スベカラザ  
ルコトヲ為シ、取ル可カラザルモノヲ取ル  
トキハ、則義ヲ傷リ、道ヲ害フ。人ノ子ニ在テ  
ハ、不孝ナリ。人ノ臣ニ在テハ、不忠ナリ。事功  
有リト雖モ、復多トスルニ足ラズ。此、廉潔ノ  
當ニ務ムベキ所以ナリ。

廉潔第十四  
凡、人義ヲ立テ道ヲ行ハムト欲セバ、廉潔ナ  
ラザル可カラズ。能ク廉潔自持シテ、榮利ニ  
誘ハレズ。而シテ後、義以テ立ツ可シ。道以テ  
行フ可シ。苟モ貪汙ノ心有テ、為スベカラザ  
ルコトヲ為シ、取ル可カラザルモノヲ取ル  
トキハ、則義ヲ傷リ、道ヲ害フ。人ノ子ニ在テ  
ハ、不孝ナリ。人ノ臣ニ在テハ、不忠ナリ。事功  
有リト雖モ、復多トスルニ足ラズ。此、廉潔ノ  
當ニ務ムベキ所以ナリ。

○孟子曰。非其義也。非其道也。祿之以天下。弗顧也。繫馬千駟。弗視也。非其義也。非其道也。一介不以與人。一介不以取諸人。

○又曰。可以取。可以無取。取傷廉。

○詩曰。不忮。不求。何用不臧。

○書曰。簡而廉。

○周禮曰。一曰廉善。二曰廉能。三曰廉敬。四曰廉正。

五曰廉法。六曰廉辨。

○論語曰。富與貴。是人之所以欲也。不以其道得之。不處也。貧與賤。是人之所以惡也。不以其道得之。不去也。

○又曰。不義而富且貴。於我如浮雲。

○阪上當道。齊衡中。右衛門權佐。以テ。檢非違使ヲ領ス。法ヲ處スルコト平直。權貴ニ阿ラズ。貞觀中。陸奧守ト爲リ。常陸權介ヲ兼ヌ。秩滿テ代ヲ待ツコト四年。任所ニ卒ス。當道財ヲ輕ムジテ義ヲ重ムジ。任ニ在テ。清理ノ稱有リ。境內肅如。夷民之ニ安ムズ。居貧ニシテ資無ク。棺斂ニ臨テ。有ル所唯。布衾一條。而シテ遺愛永ク。州人存ス。○橘良基。五州ニ歷任シ。治績有リ。罷メ歸ル毎ニ。

資糧ヲ載セズ。子孫ヲ教ルニ已ヲ潔クスルヲ以テス。予在公嘗テ治國ノ術ヲ問フ。答テ曰ク。百術有リト雖モ。一清ニ如カズ。卒スルニ及テ。家ニ儲蓄無シ。中納言在原行平。賻スルニ絹布ヲ以テス。乃殯葬スルコトヲ得タリ。

○紀夏井。讚岐守ト為ル。政化大ニ行ハレ。吏民之ニ安ムジテ。相欺クニ忍ビズ。任滿テ將ニ歸ラムトス。百姓相率テ闕ニ詣リ。留メムコトヲ乞フ。更ニ留マルコト二年。民庶富ミ。倉廩實ツ。是ニ於テ。新ニ大藏ヲ其部内ニ造ル。總テ四十字。糴納シテ

以テ不動ノ蓄トス。去ルニ及テ。吏民ノ贈遺。一モ受ル所無シ。都ニ歸ルノ後。就テ其家ニ送ル。夏井唯。紙筆ヲ留メテ。其餘ハ悉ク之ヲ還ス。

○天野康景。徳川氏ニ仕テ。祿壹萬石ヲ食シ。興國寺城ニ居ル。嘗テ室ヲ築カムト欲ス。連リニ其竹木ヲ盗ム者有リ。乃卒ヲシテ之ヲ守ラシム。一夜盜羣至シテ。守卒ニ迫ル。卒刀ヲ揮テ之ヲ逐ヒ。一人ヲ傷ク。盜ハ徳川氏ノ邑民ナリ。傷者代官ニ訴テ曰ク。天野氏ノ卒ト争テ傷ケラル。代官井出甚介。人ヲシテ康景ニ謂ハシメテ曰ク。擅ニ公邑ノ



楓湖  
  


紀の夏井任を  
 去りしに部民  
 別々を惜む



民ヲ刃ス。罪輕カラザルナリ。速ニ犯者ヲ出セ。康景曰ク。盜ヲ見テ之ヲ殺スハ定例ナリ。彼輩來テ盜ヲ爲ス。我之ヲ誅スルコトヲ得ザリシヲ恨ムルノミ。我卒吾命ヲ受テ盜ニ備フ。盜至テ之ヲ擊ツ。固ヨリ其所ナリ。何ノ罪カ之有ラム。吾與ヘシ。傷者遂ニ之ヲ家康ニ訴フ。是ニ於テ。康景甚介ヲ召テ之ヲ問フ。皆前言ヲ執テ決セズ。家康曰ク。康景偽ヲ言フ者ニ非ズ。偽或ハ訴ル者ニ在ラム。因テ命ジテ之ヲ罷メシメ。本多正純ヲシテ。康景ニ私セシメテ曰ク。彼ハ公邑ノ民ナリ。子ガ卒ハ私

人ナリ。私義ヲ以テ公威ヲ害ス。可ナラムヤ。康景曰ク。直ヲ枉テ曲ニ從フハ。吾爲スニ忍ビズ。我卒賤ト雖モ。罪有ルニ非ルナリ。其之ヲ枉殺セムヨリハ。寧口我罪ヲ得テ死セム。遂ニ城邑ヲ棄テ去ル。○平安ニ餓人有リ。黄金ヲ路ニ拾ヒ。主ヲ訪テ之ヲ還ス。主人曰ク。子餓テ貨ヲ拾フ。是天ノ賜フ所ナリ。而シテ敢テ取ラズ。潔行水ノ如シ。然リト雖モ。中心之ヲ欲スルコト無キヲ得ムヤ。餓人笑テ曰ク。吾不幸ニシテ。餓死セムトス。豈天命ニ非ズ

公學綱要 卷之五  
命ニ背テ物ヲ取ルハ塵芥且不可ナリ。況ヤ黄金ヲヤ。  
○宋ノ樂喜。同城タリシ時。宋人玉ヲ得テ之ヲ喜ニ獻ズル有リ。喜受ケズ。獻者曰ク。以テ王人ニ示スニ。王人以テ寶ト爲ス。故ニ敢テ之ヲ獻ス。喜曰ク。我ハ貪ラザルヲ以テ寶ト爲ス。爾ハ玉ヲ以テ寶ト爲ス。若以テ我ニ與ヘバ。皆寶ヲ喪フナリ。又其寶ヲ有ツニ若カズ。獻者稽首シテ告テ曰ク。小人璧ヲ懷ケバ。以テ郷ヲ越ユ可カラズ。此ヲ納テ以

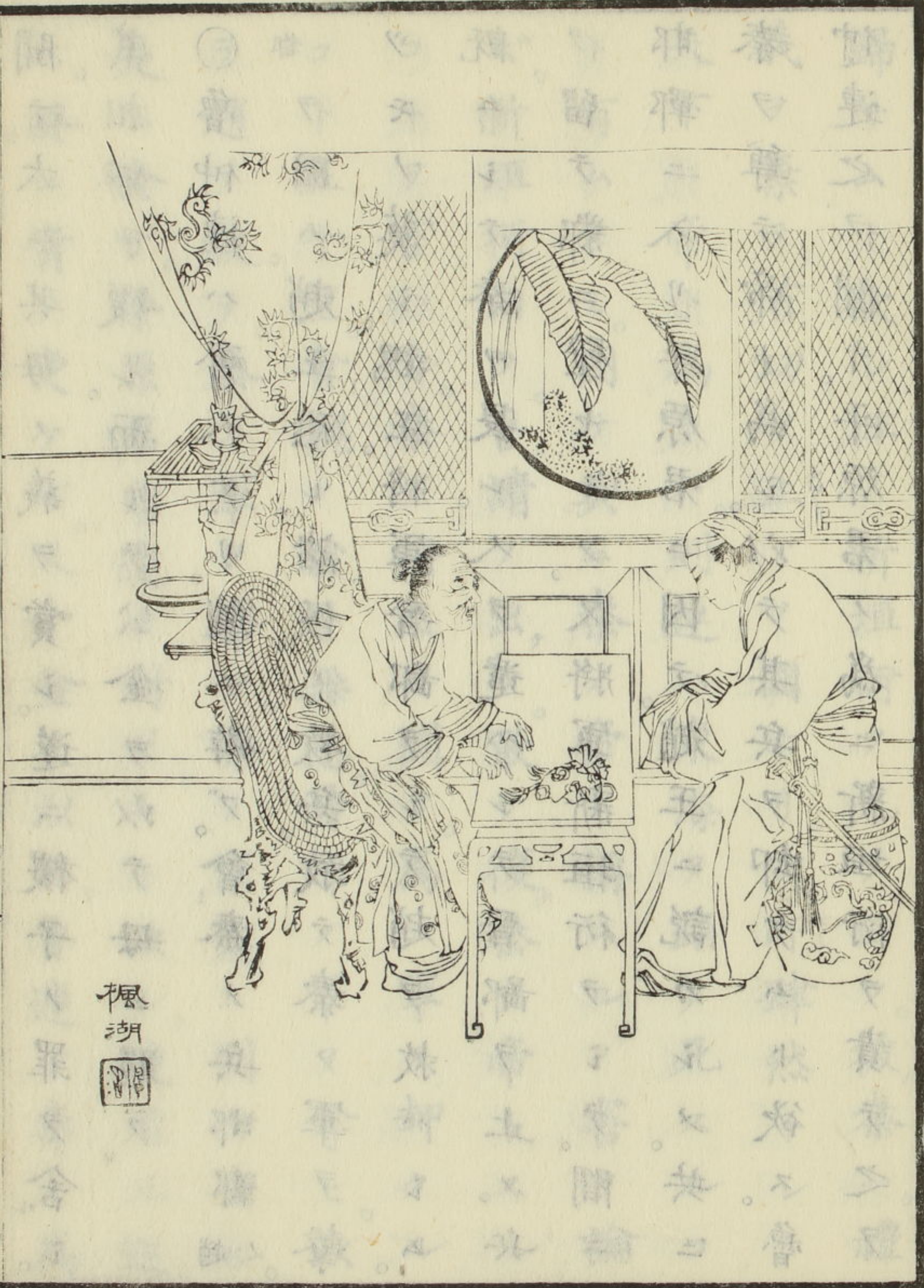
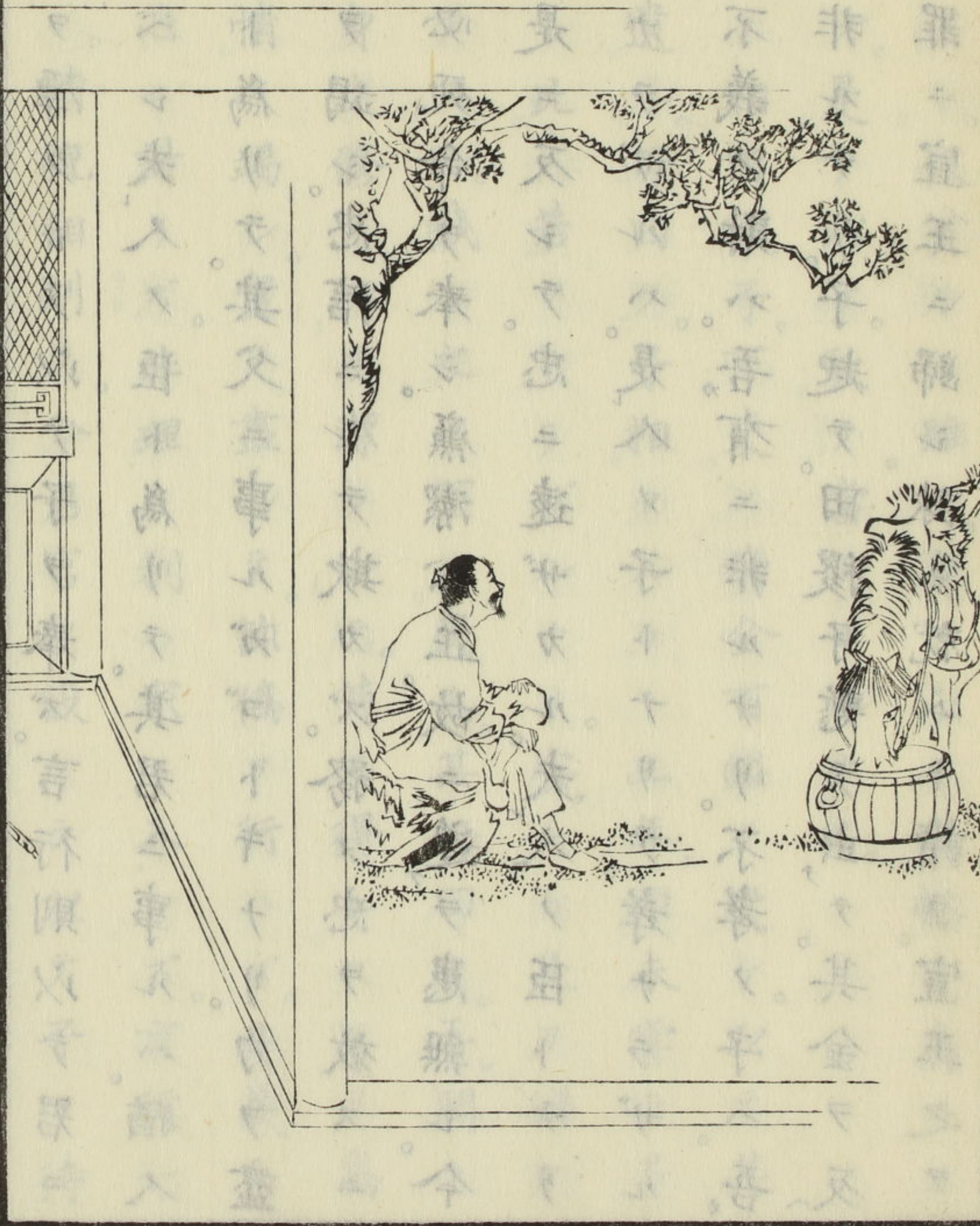
テ死ヲ請フナリ。喜之ヲ其里ニ寘キ。玉人ヲシテ之ガ爲ニ之ヲ攻メシメ。富テ而シテ後。其所ニ復ラシム。  
○孔伋字ハ子思。衛ニ居ル。緼袍表無シ。二旬ニシテ九食ス。田子方之ヲ聞キ。人ヲシテ狐白ノ裘ヲ遺ラシム。其受ケザラムコトヲ恐ル。因テ之ニ謂テ曰ク。吾人ニ假セバ。遂ニ之ヲ忘ル。吾人ニ與フルハ。之ヲ棄ルガ如シ。伋辭シテ受ケズ。子方曰ク。我ハ有リ。子ハ無シ。何ノ故ニ受ケザル。伋曰ク。伋之ヲ聞ク。妄ニ與フルハ。物ヲ溝壑ニ遺棄スルニ

幼學綱要 卷之五  
○二十七  
宮内省藏

如カズト。及貧シト雖モ。身ヲ以テ溝壑ト為スニ  
忍ビズ。是ヲ以テ。敢テ當ラザルナリ。  
○齊ノ相田稷子。下吏ノ貨金百鎰ヲ受ケ。以テ其  
母ニ遺ル。母曰ク。子相タルコト三年。祿未嘗テ多  
キコト此ノ若クナラザルナリ。安ニカ此ヲ得タ  
ル。對テ曰ク。誠ニ之ヲ下ニ受ク。其母曰ク。吾聞ク  
士ハ身ヲ修メ。行ヲ潔クシテ。苟モ得ルコトヲ為  
サズ。情ヲ竭シ。實ヲ盡シテ。詐偽ヲ行ハズ。非義ノ  
事ハ。心ニ計ラズ。非理ノ利ハ家ニ入レズ。言行一  
ノ若ク。情貌相副フ。今君官ヲ設ケテ以テ子ヲ待

チ。祿ヲ厚クシテ以テ子ヲ奉ズ。言行則以テ君ニ  
報ユベシ。夫人ノ臣ト為リテ。其君ニ事ルハ。猶人  
ノ子ト為リテ。其父ニ事ルガゴトキナリ。カヲ盡  
シ能ヲ竭シ。忠信ニシテ欺カズ。務メ忠ヲ效スニ  
在テ。必死命ヲ奉シ。廉潔公正。故ニ遂テ患無シ。今  
子ハ是ニ反シテ。忠ニ遠ザカル。夫人ノ臣トナリ  
テ。忠ナラザルハ。是人ノ子トナリテ。孝ナラザル  
ナリ。不義ノ財ハ。吾有ニ非ルナリ。不孝ノ子ハ。吾  
子ニ非ルナリ。子起テ。田稷子慙テ出テ。其金ヲ反  
シ。自罪ニ宣王ニ歸シ。誅ニ就ムト請フ。宣王之ヲ

田稷非其子也。母の金を却け、其子に誠を以て、



楓湖



聞テ大ニ其母ノ義ヲ賞シ。遂ニ稷子ノ罪ヲ舍ル。其相位ヲ復シ。而シテ公金ヲ以テ母ニ賜フ。

○魯仲連ハ齊人ナリ。趙ニ游ブ。會秦ノ兵邯鄲ノ趙

都ヲ圍ム。趙王恐レ。諸侯ノ救兵敢テ秦ノ軍ヲ擊

ツモノ莫シ。魏王將軍晉鄙ヲシテ趙ヲ救ハシム。

既ニシテ秦ヲ畏レ。人ヲ遣ハシテ晉鄙ヲ止メ。兵

ヲ留テ鄴ニ壁セシメ。又將軍新垣衍ヲシテ間ニ

邯鄲ニ入り平原君ニ因テ。趙王ニ説カシメ。共ニ

秦ヲ尊テ帝ト爲シ。以テ其兵ヲ却ケムト欲ス。魯

仲連之ヲ聞キ。平原君ノ爲ニ新垣衍ヲ責テ之ヲ

歸サムト欲シ。往テ新垣衍ヲ見テ曰ク。彼秦ハ禮

義ヲ棄テ。首切ヲ上<sup>ク</sup>ブノ國ナリ。彼即肆然トシテ

天下ニ帝ト爲ラバ。則連ハ東海ヲ踏テ死スルコ

ト有ムノミ。因テ與ニ秦ノ帝ト稱スルノ害ヲ論

ズ。新垣衍曰ク。吾請フ出テ。敢テ復テ秦ヲ帝トスル

コトヲ言ハジ。秦ノ將之ヲ聞テ。爲ニ軍ヲ却クル

コト五十里。會魏ノ公子無忌。晉鄙ノ軍ヲ奪ヒ。以

テ趙ヲ救テ。秦ノ軍ヲ擊ツ。秦ノ軍遂ニ引キ去ル。

是ニ於テ。平原君魯連ヲ封ゼムト欲シ。使者三返

ス。終ニ肯テ受ケズ。又千金ヲ以テ魯連ガ壽ト爲

史記卷之五 宮内省藏

ス。魯連笑テ曰ク。天下ノ士ニ貴ブ所ハ。人ノ為ニ  
患ヲ排シ。難ヲ釋キ。紛亂ヲ解キ。而シテ取ルコト  
無キナリ。即取ルコト有レバ。是商賈ノ事ナリ。遂  
ニ平原君ヲ辭シテ去リ。終身復見ズ。

○後漢ノ楊震。荊州刺史東萊太守ト為ル。郡ニ之  
クニ當リ。昌邑ヲ經。故舉ル所ノ荊州ノ茂才王密。  
昌邑令トナリ。謁見ス。夜ニ至リ。金十斤ヲ懷ニシ。  
以テ震ニ遺ル。震曰ク。故人君ヲ知ル。君故人ヲ知  
ラザルハ何ゾヤ。密曰ク。暮夜知ル者無シ。震曰ク。  
天知リ。神知リ。我知リ。子知ル。何ゾ知ルコト無シ

ト謂ハム。密愧テ出ヅ。震性公廉ニシテ。私謁ヲ受  
ケズ。子孫常ニ蔬食步行ス。故舊長者。或ハ為ニ産  
業ヲ開カシメムト欲ス。震肯ゼズシテ曰ク。後世  
ヲシテ。稱シテ清白吏ノ子孫ト為サシム。此ヲ以  
テ子孫ニ遺ス。亦厚カラズヤ。

○後漢ノ雷義。字ハ仲公。郡ノ功曹ト為リ。善人ヲ  
擢舉シテ。其功ニ伐ラズ。義嘗テ人ノ死罪ヲ濟フ。  
罪者後ニ金二斤ヲ以テ之ヲ謝ス。受ケズ。金主義  
ノ在ラザルヲ伺ヒ。金ヲ承塵上ニ默投ス。後ニ屋  
宇ヲ葺理シ。乃之ヲ得タリ。金主已ニ死シ。復還ス



許衡無主此梨取之



楓湖

コトヲ得ル無シ。乃以テ縣曹ニ附ス。

○元ノ許衡嘗テ暑中ニ河南ヲ過グ。暘アツクキコト甚シ道ニ梨アリ。衆爭ヒ取りテ之ヲ啖フ。衡獨樹下ニ危坐シテ自若タリ。或之ヲ問フ。曰ク。其有ニ非ズシテ之ヲ取ルハ不可ナリ。人曰ク。世亂レテ此主無シ。曰ク。梨主無キモ。吾心獨主無カラムヤ。衡家貧クシテ躬耕ス。粟熟スルトキハ。則粟ヲ食ム。熟セザルトキハ。則糝敗菜茹ヲ食ム。之ニ處ルコト泰然タリ。謳誦ノ聲。戶外ニ聞エテ。金石ノ如シ。財餘リアレバ。即以テ諸族人。及ビ諸生ノ貧キ者

ニ分ツ。人遺ル所有ルモ。一毫モ義ニアラザレバ受ケズ。

力是周皇 卷之五 〇 置 富内村

幼學網要卷之五終



